

## 彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻九の本文の位置づけ

はじめに

中根 千絵

論者は、『説林』五三号において、彦根城博物館所蔵『今昔物語』（全巻、表紙の題は『今昔物語』と書いてあるが、内題には『今昔物語集』とある。）の紹介を行ったが、その際、本の空白部分の分析、流布本系共通脱文の分析から、彦根城博物館所蔵『今昔物語』は、内閣文庫本Bに近い流布本系の本であり、内閣文庫本Bより良い本であろうと論じた<sup>(1)</sup>。しかし、その位置づけが正しいかどうかは、諸本との一語一語の比較を経て、初めて、立証されるものである。卷一については、先に論集で分析を行い、彦根城博物館本は内閣文庫本Bとのみ一致する箇所が多く、これは、『説林』五三号で論じたのと同じ傾向であるが、旧日本古典文学大系の底本である東大本甲や東北大本、野村本とのみ一致する箇所もあり、彦根城博物館所蔵『今昔物語』は、流布本系諸本（内閣文庫本A B C、東大本乙）と古本系諸本（東大本甲、東北大本、野村本）の間の状態を有する希有な本であるということを述べた<sup>(2)</sup>。卷二の場合は、鈴鹿本という原本に近い本が残っているせい<sup>(3)</sup>か、古態を残すとされる東大本甲、東北大本、野村本と一致する箇所は非常に少ないという結果が得られた。卷三では、特に、野村本が流布本系と古本系との狭間で揺れている様を見ることができた。また、様々な要件から、流布本系は、校訂本文を目指した書物群ではなかったかと推測した。但し、彦根本のように、中間的

な表記を有する書物の場合には、いまだ、そのどちらとも見定めがたいとし、今後、さらに、巻ごとの分析を続け、彦根本の性格を見極めると共に、古態本と流布本の総合的な分析を行っていきたいとした。<sup>(4)</sup> 巻四の場合に顕著な傾向として現れるのは、古本系との一致度が高く、内閣文庫本Bとの一致度は低いということである。これまで、彦根城博物館本は古態本と流布本の中間的な本として位置づけてきたが、巻四にいたって、古態本の表記を有することが判明したことにより、改めて、彦根本の位置づけを考えてみなければならないこととなった。<sup>(5)</sup> 巻五の場合は、内閣文庫本Bとの一致度は他の流布本と同じ程度である。巻五、巻七では、巻一と同じく、鈴鹿本という原本に近い本が残っているせいか、古態を残すとされる東大本甲、東北大本、野村本と一致する箇所は非常に少ないという結果が得られた。但し、巻五、巻七では全体として、流布本系の諸本と表記が一致するにも関わらず、天竺という国名については、古本系諸本に依っており、これは巻四と同じである。<sup>(6)</sup> 巻六については、巻三と同様の結果が得られた。<sup>(7)</sup> 巻九についても引き続き、彦根城博物館所蔵『今昔物語』の本文を他の諸本と比較することにより、彦根博物館所蔵『今昔物語』巻九の位置づけを試みることにしたい。但し、諸本の収集は、いまだ、その途上にあり、旧日本古典文学大系『今昔物語集』の校異と頭注から必要な部分を抜き出す形で、諸本との比較を行うこととする。

### 彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻七の本文異同

#### 凡例

一番上の段は旧日本古典文学大系のページと行、次の段は彦根城博物館所蔵本の本文、次の段は彦根城博物館所蔵本と同じ本文を持つ本の種類である。(但し、異体字などの字形が異なるものについてはこれに含め、その都度指摘した。)

★印は彦根城博物館所蔵本独自の部分であり、その部分については諸本の例を示した。旧日本古典文学大系に載る考察は必要に応じて「」に入れて付した。

各本の略語は次の通りである。

底―旧日本古典文学大系『今昔物語集』の底本（鈴鹿本（京大本））【旧日本古典文学大系『今昔物語集』の底本が現在の諸本のうちの古態本にあたりと考えられることから、底の字を使うことで、それが一見して明らかとなるようにした。】  
北―東北大本 野―野村本 以上古本 甲―東大本甲 乙―東大本乙 A―内閣文庫本A B―内閣文庫本B C―内閣文庫本C 以上流布本 鈴鹿本（京大本）を除く諸本―諸  
彦―彦根城博物館所蔵本  
大―旧日本古典文学大系

卷九の底本は鈴鹿本（京大本）

### 卷九目録

一八七 江死（第七）

諸

造奄（第八）

「造奄」底甲北野ABC（彦底甲北野の奄は奄の異体）「造奄」乙

「二字分欠」人（第十三）諸（甲北野の空格は約二字分、乙AB二字分、Bは本ノマ、と朱注）

死裕（第十六）

甲北野ABC（甲北は沈を朱補）

悔悲語第十七

底乙ABC

（第十七）

韋度（第十八）

乙ABC（Bは慶イと朱傍）

## 卷九第一話

一八八 震旦二代ニ

4 己シテ

5 食物

6 宛タリ

6 生タリ

7 成ル程

12 聞キ

告女子 (第二二)

乙 A B C (Bは失イと朱傍)

免洲 (第二二)

乙 A B C (Cの洲は州傍訓メンシウ)

廿五 (第二五)

甲 北野乙

天子寛 (第二六)

乙 B (Bは天子に李イと朱傍)

孔栝 (第二八)

乙 B (Bは栝に朱括弧イと朱傍)

第卅 (第三十)

甲 北野乙 B

遜迥曠 (第三二)

乙 A

遂貧賤 (第三七)

乙 A B C

卞土隃文 (第三九)

乙 A B (Bは文に朱圈点 除に隃イと朱傍)

獻玉 (第四四)

底 甲 北 A

B (代の上に挿入符 此空一字位イと朱注) 「震旦ニ」  
 格は約一字分)  代ニ 諸大 (乙 A C の空

★ 「亡ジテ」 底 甲 北野乙大 「亡ヒテ」 A C 「死シテ」 B

乙 A B C

乙 A B C

乙 A B C

諸

甲 野 乙 B

13 辟へ説キ給へシ 野ABC (ACの譬は辟、Bはシに朱圈点)

13 悲ノ心難堪シ 乙ABC

17 无カラム 乙B (Bのムはン)

一八九一 鋤ノ崎ニ 底乙AC

2 堀ル 乙ABC

7 前事ヲ 諸

10 貴キ事トナム 乙ABC (Bのムはン)

二行空白 (卷九第一話の後)

卷九第二話

一八九一四 [約二字分欠]代ニ 諸 (甲野乙の空格は約一字分、北は約半字分、C一字分 カケタリと朱注)

16 盛ナル時ニ 乙ABC

一九〇一 不生ナル時ニ 乙ABC

2 雨積リ 乙ABC

5 今日ノ雪高 乙ABC

5 不飲食セハ B

8 自然ニ 諸

9 心深キヲ 甲北野乙B

9 思 諸

11 語り傳へタリトヤ 甲北乙ABC

卷九第二話の後、  
二行空白

卷九第三話

一九〇 震旦丁蘭造木母致孝養底乙ABC (乙は造を危に作る)

15 約2字分欠代ニ 諸 (甲北野乙の空格は約一字分、C一字分 Cはカケと朱注)

一九一 還レル由語ル 甲野乙AB (Bはライと朱補)

2 令云聞ム 乙ABC

3 不後メ 乙AC (Aの後は変、Cはシテ)

3 悪埵ニメ ★「悪性ニシテ」底甲北野大「悪性ニシテ」乙ABC (乙ABのシテは合字、Bは不審紙)

4 憎シク悪ク思ヒケリ 底甲北

5 而間 乙ABC

5 行ル間ニ 乙ABC

9 不喜ヒノ氣色ヲ 乙ABC

10 外行タル 乙ABC

12 現 乙ABC (Bは二歟と朱補)

一九二 1 赤血 底甲北乙B

卷九第四話

一九二七 其ノ父子

7 弟ノ共ニ

8 實ニモ

11 思フニ依テ

12 捕斂サムト

12 我可被斂ルシ

13 弟其ノ咎无シト

13 此ヲ

14 失ハム事

15 恠ミ思テ

甲北野乙ABC (Bは父の下にノと朱書)

★「弟ト共ニ」底甲北野B大「弟トノ共ニ」乙「弟共ニ」AC

乙ABC

乙ABC

諸

乙B

B

乙B

甲野乙ABC (Bのムはン 事にトイと朱傍)

「恠ミ思テ」大

「底本、この「恠ビ」と「思テ」の間に「更」があり、この一字にはみせけちのしるしがあるが、恐らくこの抹消符は「恠ビ思テ」全体にかかるべきものであつたらう。但し古本系統はすべてこの句を持つ。」

一九三一 問テ云ク

1 牙ニ

4 懐ムト

5 子ノ中

5 妾子也

底

乙ABC

乙ABC

乙ABC

7 云テ

野乙B

13 物ヲ

「約ヲ」野ABC大「幼ヲ」底甲北（甲北はヤクと傍訓 約と朱傍）「物ヲ」乙

卷九第五話

一九四 2 會稽洲楊威入山遁康難底乙ABC（Bは虎を康に作り虎イと朱傍、Cの洲は州）

3 稽洲

乙ABC（Cの洲は州）

3 有リ

乙ABC

6 害シテムトス

諸（Bのムはン）

7 其ノ時

B

8 怙メ

乙ABC

8 忍養フ子无シ

乙ABC

卷九第六話

一九五 3 張敷ト

野乙ABC「張敷ト」底甲北大（甲北の空格は約一字分、底二字分）

3 死ケリ

ABC 乙は脱

4 家ノ人

★「家人ニ」底大「家ノ人ニ」諸

5 知給ヤ

乙B

6 涙ヲ流メ悲ムテ云ク

ABC（Bのムはン、Cはシテ）

悲哉

8 云

乙ABC



卷九第七話

一九六二 會稽洲曹娥

2 赤身投江

5 江へ行テ

6 然ルニ

6 死ス

10 投入レハ

13 且ハ

10 見ツ

12 聞タラムソト

13 戀ヒ悲ケリ

14 无カリケルトナム

乙 A B C

北 B (Bのムはン)

乙 A B C

★ 「无カリケリトナム」底甲北野大「无カリケルトナン」B「无リケルトナム」乙

A C

底乙 A B C

乙

A B C

乙 A B C

野乙 A B C

諸

乙 A C

卷九第八話

一九七二 震旦ノ 約一字分欠 歐尚諸大(甲北乙Cの空格は約一字分、Cはカケタリと朱注) 野は脱

6 銚ヲ

10 強ニ

11 郷人等

A B C

乙 A B C

乙 A B C

13 廬死タル  
乙 A B C (Bはニイと朱補)  
一九八一 自然ニ  
諸

卷九第九話

一九八四 自夷城迎父母養

乙 A B C

6 懷妊シテ

乙 B

8 既ニ満テ

乙 B

9 歎キ悲ムト

野乙 A B C 「難キ」底甲北大

「歎と左傍共通し、類音なるが故に誤ったものであろう。」

9 嫁ス<sup>トツカ</sup>

甲野 (甲傍訓トツカ)

15 趣キ給ヒケリ

乙 A B C

16 君尋テ

乙 A B C (Bはライ、Cはライニと朱補)

16 来レル也トテ

乙 A B C

一九九一 悲ミ哀ヌ

A B C

2 精ヲ

乙 A B C (Bは朱圈点)

5 思テ

乙 A B C

6 母迎ヘテ

甲北野乙B

卷九第十話

一九九一 築墓

乙 B

12 震旦東陽ト

乙 A B C

15 惣

A B C

15 千万鳥

諸

16 心ノ如ク

乙 A B C

二〇〇 2 心深キ事ヲ

A B C

卷九第十一話

二〇〇 8 幼雅ナリケル時

乙 B (Bは稚イと朱傍)

9 少々ノ過アル

甲北野 B (甲北野 Bはと)

9 母嘖テ

乙 A B C

10 此ノ常ノ事也

乙 B

14 身ノ痛シト

乙 A B (Bはノにナシイと朱傍) Cは脱

16 思悲キニ依テ

乙 A B Cは脱

16 負テ

乙 A B C

二〇一 3 心深キニ依テ

乙 A B C

卷九第十二話

二〇一 6 為悲

★ 「為悲母」底 A C 「為母」甲北野乙 B

7 約「字分欠」代ニ

諸大 (甲北野乙の空格は約一字分、Bは本ノマヽ、Cはカケタリと朱注)

9 死ス

乙 A B C

12 覆ヌ

乙ABC (乙ABCは覆)

二〇二4 家主

諸

5 曙テ

★「曙ケテ」底甲北野大「曙テ」乙ABC

7 語り傳ヘタリトヤ

乙ABC

卷九第十三話

二〇二10 〔約〕二字分欠 人

諸大 (Cの空格は一字分)

14 立チ留リテ

底甲北野B

14 何ソ亀ソト

乙ABC (Bはノイと朱補)

15 錢持タル人云ク

諸

15 船ノ人云ク

★「船ノ人ノ云ク」底大「船人ノ云ク」諸

16 錢持ノ人

底甲北野乙

二〇三1 亀五ツ

北乙ABC

6 咎ツル様

ABC

6 不返奉テ

乙ABC

7 然之

AC

7 其ノ由ヲ

底乙AB

8 持チ来テ

乙ABC

9 早フ

諸

10 子不返ヘル前ニ

乙B

11 无限リ

乙 A B C

卷九第十四話

二〇四 3 受タルヲ見テ

乙 A B C

3 母孫宝ヲ見テ

底乙 A B (底乙 A B は寶)

3 苦ミ息度

乙 A B C (乙 A B C は事)

6 出ヨリ

諸 (りに甲はト歟、Bはトイと朱傍)

7 其ノ報有リヤト

A C

9 其生タリシ時

乙 A B C

10 久ク

乙 A B C

11 此ノ事

甲北野乙 B

12 勘テ

乙 A B C

13 至吏云ク

乙 B

14 母云フ所ノ

諸

15 彼ノ樂堂ト云フ所ニ

乙 A B C (乙 A C の彼は変 被に近し)

二〇五 3 不願ル也

乙 A B C

7 辟ノ間ニ

野 A B C (Bは加筆して臂とす)

8 空ヲ屋ノ

乙 A B C (Bはヲに朱括弧 イと朱傍)

卷九第十五話

二〇五 14 元太寶

底北

15 丞トテ有ケリ

諸

二〇六 3 死ス

北野乙ABC

3 叡冊ハ

底乙ABC

3 死セン事ヲ

乙A

3 未知ラ

北乙ABC

5 云事知ヌ

乙ABC

5 令知テ

ABC (Bはテにナシイと朱傍)

9 此ノ夢ノ事ヲ

北野乙B大「此夢ノ事ヲ」AC「此夢フ事ヲ」底「此ノ夢□事ヲ」甲

「恐らく、もとは、ノの古体、「乃」が書いてあったものであろう。」

9 次ノ日行キ

諸 (北はキをテと訂し日の下に脱文と朱注、Bはキに朱圈点)

11 夢ノ告ノ家ニ

諸

11 令生タリシ時

BC

12 志シ哀ム也ト

甲北乙ABC

卷九第十六話

二〇六 15 索胃

甲北乙ABC (Bは索に素イと朱傍)

16 公載

北乙ABC

二〇七 1 此二人ノ

AC

2 素昌

乙B

卷九第十七話

二〇八 隨ノ代

4 衰ヘタル

諸

5 修シテ

乙ABC

6 奏テ敏セリ

乙ABC

10 相ニ助ケテ

乙AC

13 九年ノ

乙B

13 皈ラムトシテ

乙ABC (Bのムはン、乙ABCは歸) 「歸ナムトシテ」底甲北野

16 不思

乙ABC (Bは忘イと朱傍)

3 泣悲

B (隋イと朱傍)  
底甲北野B

4 馬一頭

諸

6 乗タル人

諸

7 被打破テ

乙ABC

7 祭ル時ニ

乙ABC

7 苦ヌ

AC

11 馬ノ身ヲ受テ

諸「馬ヲ身ヲ受テ」底大

13 強

乙ABC

14 告ヲ

乙ABC

16 兄カ乗レハ所ノ

乙B (Bはハをルと訂す)

二〇九 泣キ悲ム

乙 A C

7 其ノ時

乙 B

7 食シ 約八字分欠 妹

諸 (乙の空白部は約七字分、B約八字分、A六字分、C十一字分、Bは本ノマ、Cは此間カケタリと朱注) 「食シ」 兄弟 底大 (破損のため約二字分不明)

8 馬 約二字分欠 馬

諸 (B Cの空白部は二字分、Bは本ノマ、Cはカケと朱注) 「馬ニ備フルニ馬」 底大

8 即チ 約四字分欠 食ス

諸 (野乙 A Cの空白部は約三字分、B約四字分) 「即チ此レヲ食ス」 底大

9 死ス

諸 (北はややヌに近し)  
乙 A B C (Bのムはン)

## 卷九第十八話

二〇九 韋ノ慶植

甲 北野乙

15 長吏

諸 (史は吏に作る) 「長史」 大

底本「長吏」は原典「長史」の増画と考える。

15 京兆ノ人事ノ慶植

A C

16 死ヌ

底 甲北乙 A

二一〇 前ノ夜夢ニ

乙 A B C

3 青キ衣着テ

甲 北乙 A B C

4 釵

乙 A B (Bは朱圈点)

4 一隻ヲ

A B C

5 万ツ

乙 A B C



- 6 人ニ与ヘテ 北乙ABC
- 6 悲ト 乙ABC (Bは非イ、Cは非カと朱傍)
- 7 被致シムトス 乙AC
- 10 釦着ス所 乙A
- 12 云ニ 「云フニ」大
- 12 調ル 「調フル」大
- 12 此〔約四字分欠〕致シテ 諸 (ABの空白部は四字分、C五字分、Bは本ノマ、と朱注)「此ノ羊ヲ致シテ」底大
- 13 女〔約二字分欠〕 諸大 (底破損のため不明。諸本空白、甲北野約二字分、乙B約一字分、AC二字分、Bは本ノマ、と朱注、主歟と朱補)
- 13 還給テ後 乙ABC
- 13 遅〔約三字分欠〕 諸大 (底破損のため不明。諸本空白、甲北乙B約三字分、野約四字分、AC二字分、Bは本ノマ、と朱注)
- 二二一 1 叫レテ 乙
- 4 人只 乙ABC 「人」只「甲北野 (野の空白部は約一字分)」「人」只「ニハ只」底大 (底本破損のため不明)
- 4 羊鳴ク音 「前後の文脈から判断するに、恐らく「耳」とあったものであろう。」
- 5 諸人ノ 乙ABC
- 10 飲食ニ依テ咎也 乙ABC (Bは咎に主圈点)

卷九第十九話

二二二 2 仮囊ヲ

A B C (Bは仮に仍イと朱傍)

3 形ハ端正也

諸

3 確カ [約三字分欠] 属ヲ A C (Cの空白部は四字分)

3 話テ云ク 甲北乙 A B C

3 家約 [二字分欠] 女子也 諸 (野の空白部は約一字分、A C三字分、Bは主ノイと朱補) 「家□ノ女子也」底大

(破損のため約一字分不明)

4 未タ不死ソレ時 乙 B

4 我レ [約四字分欠] 銭 諸 (野Bの空白部は約四字分、C二字分、Bは父母ノイと朱補) 「我レ父□□ 銭」

底大 (破損のため不明)

6 銭 諸

6 盗ム 乙 A B C

6 罪ヲ得 乙 A B C

10 見ルニ 乙 A B C

12 修シナリトナム 甲北乙 B (甲はナをケと朱訂、Bはケイと朱傍、Bのムはン)

卷九第二十話

二二二 16 臣尹子伯奇死鳴報継怨甲北野乙 B (Bは臣の下に伊イ 死の下に成イ、野は也東 継の下に母イと朱補) 「臣

伊尹子伯 奇死鳴報継母怨」 A C 「臣伊尹子伯奇死成鳴報継母怨」底大 「鳥」の

増画であるか、「鳴鳥」の略かのいずれかであろう。」

二二三 1 震旦周ノ代ニ

A B C

1 伯奇ト云

野乙 A B C 「伯奇□」甲北「伯奇ト」底大 「恐らく、脳裏においては「ト云」というべくして、現実の言語行為としては、いわずに終わったものであろう。或は、聴き取りが不十分であったものが、そのまま修正されることなく弘まったものであろうか。」

4 恐怖メ

乙 A B C (Cはシテ)

7 悪キ事

乙 A B C

9 此ノ事

乙 B

9 慥ニ

乙 B C

10 君木ノ隠ヨリ可見シ

諸 (B彦以外の諸は陰) 「君蜜□ 可見シ」底大 (破損のため不明)

11 地倒テ

乙 A B C

13 父ニ云フ

乙 A B C

14 君見スヤト

乙 B

14 慥ニ

B C

15 犯サムト為ルヤ

A B C (Bのムはン、Cの為はス)

二二四 1 只不如シ

乙 B 「只不如」A C 「只如不ジ」底甲北野大

3 迹テ

乙 A B C

3 迹テ去

乙 A B C 「迹ケ去ケ」底甲北野大

流布本は「去」一字のみ。「恐らく、もとの本に去レリとあったものを速写して、二字を一字分の如く書いたのではあるまいか。」

4 驚キ騒キ

乙 A B

6 渡ル間

乙 A B C

8 不知ト歎キ

A B C

10 求テ

乙 A B C (Bは来イと朱傍)

11 追テ来レリ

乙 A B C

14 居ス

乙 A B C

14 家ニ皈

諸 (諸は歸)

15 此ノ心

甲北野乙B (Bは此に主圈点)「此心」A C「此□心□」底大(底破損のためカナ不明)恐らく「此レ心口」とあつたものであらう。

二一五 1 死ヌ

北乙 A B C

1 其ノ時飛テ

底甲北乙A

1 頸ニ

甲北野乙B

1 喙ミ

甲北野B C 諸 (彦諸本の旁は「録」・「録」の旁に作る)「喙ミ」大

卷九第二十一話

二一五 10 適三人ノ

乙

10 女子

諸

14 尋子求ル无シ

B (ルの下にニイと朱補 Bは子がネ)

15 隠シタルカト

乙 A B C

15 後ハ

諸

16 惣ノ

乙 A B

16 无限リ

乙 A C

二二六 4 馬乗テ

乙 A B C

4 打チ圍テ

乙 A C

5 音ヲ出ス

乙 A B C

5 兎ノ

B C

7 死ス

甲北野乙 B C

7 悲ミ歎ト云ヘトモ

甲北野乙 B

7 力及ハ

★ 「力不及ス」底甲北野大「力不及ハ」乙「力及ハス」A B C

卷九第二十二話

二二六 13 兄洲

甲北野乙 B

14 兄洲ノ

乙 B

14 遂安公

乙 A B C

14 季壽ノ好宗室ト

乙 A C

14 對ス

乙 A B C

二二七 2 非ス

乙 A B C

3 心ニ

諸大

3 不盜ニ

乙 A B C

卷九第二十三話

- 5 有リ 乙 B
- 6 割キ 北野乙 B
- 7 何ヲ 乙 A B C (Bはソイと朱傍)
- 7 有ランヤ 乙 A B C
- 8 俄ニ一人 甲北野 A B
- 8 云モ 乙 A B C
- 9 益有ラム 乙 A B C
- 9 遂可免シ 乙 A B C
- 9 汝等為ニ 甲北野乙 B (Bはカイと朱補)
- 9 非スヤ 乙 A B C

- 二一八 3 代ニ 乙 A B C 「」代ニ 底甲北野大 (甲北野の空格は約一字分、北は唐敷と傍書)
- 5 里ノ中ニ 乙 A B C
- 6 潘果ノ年少輩ト 乙 A C (Cは少の下にノイと朱補)
- 7 将来ラムト為ルニ 諸 (Bのムはン、Cの為はス)
- 8 然レハ 乙 A B C
- 8 貴テ 乙 A B C (Bは煮イと朱傍)
- 11 富平縣ノ厨 A B C
- 11 鄭餘度ト云人 乙 A B C

卷九第二十四話

二一九 7 外色ニ

7 一人ノ人

8 隣家ニ

8 生タルヲ

10 又児ヲ

13 不下ヲ云也

16 咎ハ事无之

二二〇 1 間ヲ

1 城戸

3 踏ニ入ル

9 走ルト

9 不止ニ

11 此レ誰カハ  
16 生セ

B (誰に不審紙)  
乙 B

二一九 2 感セム事ヲ

2 怖ル

乙 A B C (Bのムはン)  
乙 A B C

3 御史

諸大 (底甲北野の史は吏)

「古本系統「吏」に作るのは中世に普通の用字。」

乙 A C

乙 A B C

乙 A B C

乙 A B C

乙 A B C

A C

乙

乙 B

乙 A B C

乙 B

乙 A B C

乙 A B C

12 採レル者

諸

15 葉田ノ中ニ

乙 A C

二二二 2 満合ノ事

A B C (Bは満イにナシイと朱傍)

2 枯レタリ骨ト

甲北野乙 A C

5 鶏卵ヲ

乙 A B C

5 不長ナル罪也ト

乙 A B C

卷九第二十五話

二二二 10 天女善略

乙 B C (Bは善に善イと朱傍)

15 我等頭ヲ

諸 (野はカ東、Bはカイと朱補)

二二二 2 云リ後

乙 A B C

卷九第二十六話

二二二 8 得現報語

底 A B C

9 上 一字分欠 國ニ

諸 (Cの空白部は約二字分 カケタリと朱注)

11 懷妊セリ

乙 A B C

12 不札ノ

「不札ズシテ」底甲北野乙 B (乙 Bの札は変 即ち内部を乙は東、Bは未に作る、野は「澄按札ハ拳ノ草体ノ誤転ルナラン用ニテモ文意分明ナラス」と頭注)「不用シテ」

A C (Aのシテは合字)

底本の字体は「拳」の草体。



卷九第二十七話

13 令生タル也ト

乙 A B C

二二三 5 名

乙 A B C (Bは名の下にハイと朱補)

9 向テ問給フ

乙 A B C

11 侄

諸 (野は徑歟と朱傍)

12 衛ヌル

乙 A C

13 此レヲ

甲北野乙B (甲はヲにラと朱傍、北は脱文と朱注)

14 亶ニ

乙 A B C (乙 A B Cは事)

14 令語ンカ為也

乙 A B C

16 共同ク

野乙 A B

二二四 2 進メン

乙

2 左右ニ願ル

乙 A C

4 食セル亶

甲乙 A B C (甲乙 A B Cは事)

6 一人ノ鐵ノ床有リ

乙 B

9 割レ裂ヌ

乙 A B C

9 卵從レ出タリ

乙 A B (Bは從に朱圈点)

12 還リ去ヌト

乙 B (Bはヌにネイと朱傍)

14 苦ヲ

乙 A B C

14 令問メヨ

乙 A B C (Bは問に朱圈点)

15 皇帝ト成テ

底乙AC

15 滅シキ

乙ABC

16 宣シヲト

乙ABC

16 父帝

北乙ABC (北は父と朱訂)

二二五 2 世ヲ 約九字分欠

諸 (甲北野の空白部は約三字分、乙C五字分、B約八字分、A七字分、Cはカケタリ

と朱注) 「世ヲ メラム」底大 (底本破損のため不明)

二二五 2 難堪カリトナム

諸 (Bのムはン トに朱括弧 イと朱傍 ンの下にトイと朱補)

## 卷九第二十八話

二二五 6 孔恪

甲北野乙AB

11 弟ノ「脱」召ス

「弟ハ『汝ガ致セル也』ト稱シ申ス也。何ノ故ニカ、汝ヲ諍ヘル」ト。此レニ依テ、

孔恪ガ弟ヲ「召ス」大

14 向テ云ク

乙ABC

15 令食テ

乙ABC (Bはテに朱圈点)

二二六 1 國事ト

乙ABC (Bは国の下にノイと朱補、乙ABCは国)

2 火ニ至レリ

乙ABC

3 云フ

底甲北野B

3 云ニ叙フル

乙ABC (Bは云に朱圈点 叙ハ異体 叙イと朱傍)

6 卯六ツ

北乙ABC

8 罪ヲ

乙ABC

- 9 自ラ 乙ABC
- 10 着テアリ 約六字分欠 乙ABC (乙Bの空白部は約八字分、A六字分、C二字分 カケタリと朱注)
- 12 聞 野乙ABC
- 12 喚ヒ還シテ 約三字分欠 甲北乙ABC
- 13 何事ニ
- 13 生レテヨリ 乙ABC
- 13 罪 約二字分欠 此レ 諸 (甲北Bの空白部は約二十字分、野乙十一字分、A十四字分、C四字分 カケタリと朱注、ACは此レのレ欠)
- 底本の破損多い。
- 「罪(有ルヲバ皆不残ズ記シ、生レテヨリ以來タ善ヲ修セシヲバ不記ズ。豈ニ)此レ」
- 大
- 14 主司ノ召シテ 諸 (ノに北はヲ、Cはライと朱傍)
- 15 不記ソ 乙ABC
- 二二七 3 罰畢ル 甲北野乙AB
- 3 濺ケル 「濺ケル」AB (岩彦AB 濺は三水×賊 Bは濺敷と朱傍)
- 4 残り無之 乙ABC (Aの無は無 Bは之にシイと朱傍)
- 4 罪可受シト 諸
- 5 進テ善ヲ 乙ABC
- 8 勤ヌ 北野乙
- 8 第七日ニ至テ 乙ABC

卷九第二十九話

二二七 12 約二字分欠 代二

諸大（甲北野Bの空白部は約二字分、北は隋歟、Bは唐イと朱傍）

12 有り

諸

15 与フ

A B C

16 行クニ一人ニ

底甲北野B

二二八 2 明ル日食時ニ

諸

3 一行と十二字分欠

語テ諸（甲北の空白部は二行、野B一行と約十字分、乙一行と約十八字分、A一行と五字

分、C五字 カケと朱注、野Bは「皆兵仗ヲ以テ入来リ遙ニ安仁ヲ見テ呼出ス安仁不

應シテ念誦逾進ス鬼相東（イ）と朱補）

「皆、兵仗ヲ撃テ寺ニ入テ、遙ニ、安仁ガ佛堂ノ中ニ坐セシヲ見テ、「速ニ出ヨ」ト喚

フ。安仁不答ズシテ佛ヲ念ジ奉ル事无限シ。使ノ鬼不近付ズシテ」底大

4 安仁

諸

5 依カ

甲北野乙B

6 談シム

A C

11 皮ノ馬

北野乙

卷九第三十話

二二九 4 代二

諸（北は□と補入、Bは一本空一字位と主注）□代二底（約二字分空格）

5 至

諸

7 我ホハ是 乙AB (乙ABは等)

7 学ニ廣ク残り有テ 乙ABC (Bは残に朱圈点)

8 知り 諸

8 請ク 乙ABC

12 天人 乙ABC

13 旅ノ捻管 乙ABC (C傍訓タビ・ソウクワン)

15 檢フ ABC (C傍訓カンガ)

16 被狂窓タリト 乙B

11303 行臺郎中ノ霍障 ABC (Bは璋イ下做 此と朱傍)

3 近座メ 乙ABC (乙ABCはシテ) 「延座シテ」底甲北野大

「延をチカシとよめる。」

4 才覚ヲ 乙ABC

4 備テ 乙ABC

5 免ス 乙ABC

6 学ヒ浅ノ残り少シト ABC (Bはノにクイと朱傍)

8 免ニ 野ABC (Bはニに朱圈点 免に覚イと朱傍)

9 喚フ 乙ABC

9 才覚ヲ聞キ 乙ABC

13 才休ヲ 「才休ヲ」甲北野乙B (彦乙Bの休は人偏×禾) 「才覚ヲ」AC 「才休ヲ」底大 「休」

は「術」の俗字。

14 不見リキト云フ

乙ABC

15 文章悟レリ

乙ABC「文章悟レリト」甲北野「文章□悟レリト」底大（破損のためカナ不明）「恐らく二とあったものであろう。」

二三二

1 嘉運ニ別ル時

乙ABC

1 若我カ家ノ

乙AB

2 馬賣テ

諸（甲の賣は変 賣と朱傍）

3 前キ

乙ABC（Bはニイと朱補）

6 湿道ニ

乙AC

9 東海公ニ見ヘテ

諸

9 不浅事ヲ

★「不浅ル事ヲ」乙ABC「不識ザル事ヲ」底甲北野大（甲北野の識は草体）

11 卒ヌ

乙BC（乙BCは率）

11 二人亡シテ

諸（甲野の亡は変 甲は亡と朱傍）

12 神也

乙ABC 野は欠

13 走テ逃ケ

北B

15 成リ

乙ABC

15 而

ABC

16 死ル、事ヲ

乙B

二三三

1 魚捕ル

諸

2 買ニ

野ABC

5 父本

北乙AB

卷九第三十一話

二二三二 8 柳ノ智感至冥途ニ

甲北野乙B

9 阿東ニ

乙ABC (Bは河イと朱傍)

9 柳智感

乙ABC (乙ABCは柳)

9 長拳縣ノ命

甲北野乙 (命に北は令イと傍書)

13 住セムト為ル

乙ABC (Bのムはン、Cの為はス、Bは住に任イと朱傍)

15 死不當

乙ABC (Bは死の下にニイと朱補)

15 官府ニ来ツ

底乙AC

16 更智感ヲ

甲北野乙B

二二三三 1 判管

諸 (甲北の判は異体)

1 六人トメ

乙ABC (Cはシテ)

1 長キ屋

ABC

4 階下ニ

乙ABC

4 此ノ故問フ

諸 (故の下に野はヲ東、BCはライと朱補)

7 免ニ

野乙ABC (野の免は異体)

9 日暮ニ

諸

10 懸職ニ

甲北ABC (Cは縣カと頭注、甲北ABCは職)

12 然ルニ

諸

13 美麗也

乙ABC

15 免ニ

野乙ABC

16 官案

乙ABC

二三四

1 此聞テ

諸 (Bは北の下にライと朱補)

2 引ク事

底甲北野乙

4 官ノ

ABC (Cはノにライと朱傍) 乙は脱

4 被逼シム

野乙AC

7 病ニ

乙ABC

10 俄ニ

乙ABC

11 秩満テ

底甲北AC (C以外の秩は異体)

13 并ヒ

乙ABC (Bはヒに朱括弧 イと朱傍)

13 薄對シテ

乙ABC (乙ABのシテは合字、Bは封イと朱傍)

15 問テ

諸

15 其ノ官注シテ

乙B「其官注シテ」AC「其ノ官ノ注シテ」甲北野「其ノ官」疑シテ」底大(破

一三五

3 親淺ノ

乙ABC

3 名伏

乙ABC

4 カヲ

諸 (Bは事イと朱傍)

6 有ラント

乙ABC

6 判官ニ

乙ABC

7 隆洲ニ遙遣テ

甲北乙AB野



卷九第三十二話

二二六 4 遜廻瑾

5 約一字分欠代ニ

5 侍御トメ

6 三善谷

9 廻瑾

11 朗ナル也悟テ

7 死タリ

9 経ヌ

10 凶ヲ

11 捕フ追フト

12 死ナムス

13 進テ来テ

13 機ス

14 一凶ヲ

14 告シ

16 先録卿

16 卯洲

16 判吏

乙 A B C

乙 A B C

甲野乙 B

乙 A B C

乙 A B C

乙 A B C

北野 A C (彦北野 A C の機は異体)

甲北野乙 B (野乙の凶は変)

乙 A B C (シの下に B はニイ、C はニと朱補)

乙 B (B は先に朱圈点)

乙 A B C (C の洲は州)

諸 (甲北 B の判は異体)

諸

諸大 (甲 A B の空格は約一字分、C はカケタリと朱注) 「」ノ代ニ北

乙 A B C (C はシテ)

甲北野乙 A B

乙 A B C

諸

13 韓鳳方  
14 鉄レリ

乙 B

底甲 A C 大「鉄レリ」 B (誤イと朱傍) 「錯レリ」野「錯レリ」北乙  
「恐らく」「錯」とすべきものを錯は普通「失錯」と熟し用いているところから金偏に  
「失」を配するに至ったものであろう。」

14 冥ク  
二三七 3 高ク拳

乙 A B C (Bは宜イと朱傍)  
乙 A B C (Bはティと朱補)

4 蜘蛛ノ網

「蜘蛛ノ網」大

「底本の「蜘蛛」は動用字。「網」は「網」の異体字。」

7 驚タルハ

★ 「驚タレバ」底甲北野大「驚クレハ」乙「驚クルハ」 B (カにタイ ハにニイと

朱傍) 「驚タルニ」 A C

12 浴洲  
12 一ノ人ノ来テ

諸大「洛州」 B本のイ本

14 迥瑾ニ

諸

15 魏徴也

底甲北野

15 何

乙 A B C

諸

二三八 2 鬼

乙 B C (Bはニイと朱補)

3 我ヲ

乙 A B C (Bはヲにナシイと朱傍)

3 追

乙 A B C

5 開ヲ

A B C

9 家ノ人ニ

乙 A B C

卷九第三十三話

二二九九 傳英

9 令行ヌ

甲北乙ABC (甲はメと朱訂、Bはメイと朱傍)

11 此人ハ

乙ABC

14 其ノ時瑾思ハク

乙B (Bは迺イと朱補)

3 約一字分欠代ニ

諸 (甲北野乙Aの空格は約一字分、Cはカケタリと朱注)

3 有リ

諸

3 大原人也

乙ABC

7 俄ニ

乙ABC

7 死ス

野乙AB

8 薩躰

乙ABC

9 死ス

野乙ABC

11 仁均カ云ク

底甲北乙

11 泥人云

甲北野乙AB (Bはトイ ハイと朱補)

12 命也

B (トイと朱補)

13 我レモ所ニ

B (レモに其イと朱傍)

14 罪福ノ

乙ABC 「罪福ヲ」底甲北野大

「罪福ノ報ヲ」といふべきところを古本かく作る。」

14 有リヤ

乙ABC

二四〇 1 夢サメ

15 文

乙 A B C

乙

2 夢ノ事ヲ説語ルニ

乙 A B C

卷九第三十四話

二四〇 8 [約「二分欠」代

諸 (甲北野乙Cの空格は約一字分)

8 尚書刑部侍郎

乙 A B

10 永徴

諸 (Cは徴と頭注)

11 命大王璿ト

乙 A B C 「命丈王璿ト」甲 (史と朱訂) 「命史王璿ト」底北野大

「原典・珠林の「都官令史」を字体近きにより誤認もしくは誤写したものの。」

11 死ヌ

底北 B

13 追テ

諸

14 牡ナル

底甲北乙

14 西門ニ

乙 A B C

15 東ノ間ニ

底乙 A B C

15 床ル几

B (ル几にナシイと朱傍)

16 童子

諸 (Cは童子に童カと朱傍)

16 階ノ本

諸

二四一 2 庭ニ

乙 A B C

3 王禱ス

A B (Bは禱スに禱ニイと朱傍)

- 二四二
- |    |          |                                  |
|----|----------|----------------------------------|
| 4  | 何依カ      | 乙ABC                             |
| 4  | 長安ノ佐史    | 底甲北野乙                            |
| 6  | 非サレ也ト    | ★「非ザル也ト」底甲北野B大「非サレヤト」乙「非サレハ也ト」AC |
| 6  | 太官       | 諸大「大官」北                          |
| 10 | 領セシ      | 底本このみ「太」に作る。以下すべて「大」             |
| 10 | 王璿カ      | 乙ABC                             |
| 10 | 傳テアルヲ    | 乙ABC                             |
| 12 | 云フ即      | 乙ABC                             |
| 12 | 此門       | 甲乙ABC（甲は北と朱傍）                    |
| 13 | 暗ク       | 乙AB                              |
| 13 | 皆小ヲ      | 乙B                               |
| 14 | 案ノ上ニ書ニ依テ | 諸                                |
| 14 | 王璿語テ云ク   | 乙ABC（Bはニイと朱補）                    |
| 15 | 汝放       | 諸                                |
| 16 | 早ク去ヨ     | 乙ABC                             |
| 1  | 免レ       | B                                |
| 2  | 官城門ノ     | 乙ABC                             |
| 6  | 要ヲ敢テ     | B                                |

- 6 吉クシテ  
ABC
- 6 赤地袍ヲ  
乙ABC (Bは地の下にノイと朱補)
- 7 丈木ノ碑  
乙AC「大木ノ碑」B「大木ノ碑」野「丈木ノ碑」底甲北大  
「丈木意不明。底本の偏を「阜」の変と見るならば「碑」とも書く字でヒメガキの意になるが、この場合の文意にはややそぐわない。一方、底本の偏を「長」の変と見るならば「篋」、および竹+卑の字の俗体と考えられる。篋はイヒシタミの訓あり、今日の飯杓子に当るので、この場合はかく解すべきものかと思われる。」
- 8 其碑ノ上ニ  
B
- 9 立テ、ル案  
乙B
- 9 官府  
「官府」古本大 中世に普通の「官府」の通体。
- 11 王璿ヲ見テ  
北野乙ABC
- 14 若必  
乙ABC
- 16 去ヌ  
ABC
- 16 王璿ヲ  
乙ABC
- 16 廳ノ上座ニ  
乙ABC
- 二四三 何ソ輒ク  
乙ABC
- 1 至レルヲト  
乙ABC (Bはヲにソイと朱傍)
- 2 令捻テ  
乙ABC
- 2 令  
乙ABC
- 8 与ヘヨ  
B (彦B 行末)  
乙AB

9 吏ノ 流布本「史」古本系統 大

10 不用ヤト 乙ABC

11 命可依シト 乙ABC

13 垣ヲ穿テ破タルヲ 乙AB

15 垣至テ 諸

二四四 4 将去ラムト 乙ABC (Bのムはン)

4 既ニ令入 乙ABC

5 放チ還テ 乙ABC

5 活ス 野乙ABC

6 紙百帳ヲ 乙ABC

9 焼テ 乙ABC

卷九第三十五話

二四四 16 玄盛 乙AB

16 人乱ヲ 底甲北野乙 (乙は人の下カナ一字分空白)

二四五 3 諸門閑タリ 乙ABC

3 安土ノ 乙AC

4 人此アリ 甲北乙ABC (甲北はアをヨと朱訂、Bはヨイと朱傍)

4 恐レツ ABC

4 舊ク相ヒ知タル ABC

- 6 相知ル人 乙ABC
- 6 秘書省ハ 乙ABC
- 11 庾抱ニテハ 乙ABC
- 11 庾抱 底甲北野乙
- 13 安土門ニメ 諸(甲は土に上敷と朱傍、乙ABC以外はシテ)
- 13 不免メ 乙ABC(Cはシテ)
- 14 死スル事ハ 甲ABC(甲はヌと朱訂)
- 14 自然ノ 乙ABC
- 16 此レ事ヲ ABC(Bはレにナシイと朱傍)
- 二四六一 行ク 乙ABC
- 2 乗馬テ 乙ABC(Bはニイと朱補)
- 3 驚テ恠フ 乙AB
- 6 无限リメ 乙AB
- 6 善根ヲ 乙ABC
- 6 為ニ(「脱」)善根ヲ「為ニ、(「追テ善根ヲ修セム」ト請フ。庾抱、鑑ノ心深シト云ヘドモ、)善根ヲ」大
- 8 庾抱カ云ク 諸
- 8 我捕君ヲ 諸
- 12 死スル時ニ 北野B
- 13 云ユルニ B
- 14 辟ヒ 乙B



卷九第三十六話

二四七 3 賤ノ

底

3 学ニメ

乙 A C (Cはシテ)

6 家ヲ出テ

乙 A B C

6 器量ノ

乙 A B C

7 赤キ衣表ノ衣ヲ

諸

8 如此ク

野乙 A B C

8 會シヌルニ

甲北乙 C

10 交テ遊ハムト

乙 A B C (Bのムはン)

11 置トナム

諸大

11 弘豊農

底 (「農」にみせけちあるもの如し)

11 住セリ

乙 A B C 「住セリ」甲「住セリ」底北野大

11 時ニ

「住セリ」が通りがよい。

12 住セリト

乙 A B C

13 名ヲハ

乙 A B C

約二字分欠

國ノ

諸 (空白部、甲北約十九字分、野約十六字分、乙A約十二字分、B約二三字分、C七字分 Cはコノ間カケタリと朱注)

「名ヲバ〔何ニカ申ス〕ト。景、替テ云ク、「黄河ノ北ヲバ、惣ジテ我が胡國トス、

國ノ」大

- 14 有ル沙碩 諸「有ル□」底大（破損のため不明）
- 15 控撰メ給フ 乙ABC（Cはシテ、乙ABCは攝）
- 15 心事无キ 乙ABC
- 16 此来リ過ルニ 乙ABC（Bは此の下にニイと朱補、此にC傍訓コ、ニ）
- 二四八 1 景カ云フ 乙ABC
- 2 馴レ睦 ABC
- 2 咎有シ ABC
- 3 遇難ヲ 乙AB（Bは過イと朱傍）
- 3 宿業ノ命トメ 諸（乙ACC以外はシテ）
- 4 力不可及ト 乙ABC
- 5 令知ト教ヘ景テ 乙ABC（景にBは置イ、Cはアマリ字と朱傍）
- 6 従ハ仁舊ニ随テ 甲北野乙A
- 8 岑ノ之象云フ B
- 8 合也 乙ACC（Cは生カと朱傍）
- 9 年来未タ 甲北乙ABC
- 9 親之象 乙ABC
- 9 文令教ム 乙ABC
- 11 无シ AC
- 12 交リ睦ツ 乙ABC
- 13 苦メ事 乙ABC（メにBはナシイ、Cはムカと朱傍）

15 云シキ 乙ABC (Bはシに朱圈点)

16 彼ノ鬼ニ 乙ABC

16 膳ヲ 野乙ABC

二四九 1 仁菫云ク 乙ABC 「仁菫□云ク」底甲北野 (底は破損のためカナ不分明、甲北野は一字空白)

「恐らくガとあつたものであろう。」

1 不入ニ 乙AC

2 其ノ設ツ 乙

2 景カニノ客ヲ 乙ABC

3 坐メ 乙ABC (Cはシテ)

4 食ノ不精ス 乙AC

5 儲ケント為ル時ニ 底B (Bのムはシ)

7 絹ヲ用ルカ故ニ 乙AB

10 替リ令坐テ 乙ABC

10 金錢絲絹ヲ 諸 (野は錢に銀東 絹に帛同と朱傍)

11 思ヒ不知ラヤト 乙ABC

13 受 ABC

二五〇 1 君郷ノ人 諸

1 大山ノ 諸

2 成ナハ 底甲北野乙大

「このままでは文意通じない。」

4 君カ命 乙ABC

5 責メ令 約「一字分欠」也 諸(乙Bの空白部は約「一字分」、Cはカケタリと朱注)

5 問ケハ 乙ABC (Bは聞イ、Cはカケタリと朱注)

5 主簿(「脱」) 闕タリ★ 「主簿ハ、〔昔シ、睦兄ト同學デ有シ人也、互ニ恩深リキ。今、幸ニ主簿ト成ル

事ヲ得タリ。而ル間、適マ、一人ノ主簿」 闕タリ」 底大「主簿」 睦兄ト」 甲北

野A (Aの空白部は二字分) 「主簿睦兄ト」 乙BC (Bは簿の下に一本空一字位と朱

注)

6 適ニ 乙ABC (C傍訓マサ)

14 佛像ヲ 乙ABC

二五 1 聞ケト云ヘトモ 乙AB (Bはケに朱括弧 イと朱傍)

3 六道可生シ 乙ABC (Cはニ補入)

4 縣ノ内ニ 乙ABC

5 幾ク家カ 乙ABC

5 幾ク有ルト ABC (Cの有はア)

7 亦幾カ有ルト 乙

9 得ル者ハ万カ ★ 「得ル者ハ万」 底大 (カナ不分明) 「得ル者ハニ」 甲北野 「得ル者万ニ」 乙AB

C (Cの得はウ)

11 多カト 甲北野乙B (Bはリイと朱補)

12 其ノ尤モ 乙

13 有リヤト 底乙

卷九第三十七話

二五三 3 行價ヲ

4 行キ

5 光ノ中ニ

15 章雛一ハ

15 谷有リヤ

16 太山府君

16 大洲ノ

二五二 1 適ニ

1 章雛一

2 其申カ

2 盡ク

2 狂監セシム事

3 奉ツルカ如シ

3 有レハ

8 是大府卿

9 馬周給事

約二五字と一行分欠

乙 A C (Cは雛に解と朱傍、乙 A Cは章)

諸

A B C

諸 (Cの洲は州)

B C (C傍訓マサ)

A B C (Bは朱圈点、Cは雛に解カと朱傍)

A C (Cは申ニ由カと朱傍)

A B

甲北野乙 A C (野は狂監に朱圈点)

諸

諸

北野乙 A B C

諸 (空白部、甲北約十五字と一行、野約七字と一行、

乙約十四字と一行、B約二十五字と一行、A十二字、C十字)

「馬周給事〔中章現等、對ヒ坐シテ文本自ラ諸ノ人ノ為ニ語ルヲ聞テ語り傳ヘタルト

ヤ〕底大

甲北乙 A B C

乙 A B C

甲野乙 A (甲は兎歟と朱傍)「完ノ中ニ」(兎カと朱傍)「先ノ中ニ」C (土カと朱傍)

6 横 「兎ノ中ニ」底B大（Bの兎は変）「掬」の省文と見る。  
 底 「櫃の通字、もしくは省文として使われたもの。」

8 一日ニ 乙ABC

11 盗タルト 北乙ABC

11 諍フ 甲野乙ABC

15 賣 乙ABC

15 寄り付ノ 乙AB（Bはノにナシイと朱傍）

15 无シ 乙ABC

16 語り傳へタルトヤ 底野ABC

卷九第三十八話

二五四 4 震旦 乙ABC

5 國ヲ 諸大 文意不通。「国此レヲ」の短絡か。

6 寇ノ謙之ニ 「寇ノ謙之ニ」底甲北野乙（寇は異体、彦甲の寇は変 寇と朱傍、乙の謙は変）

14 司徒 甲北野

14 滅シナムトスト 乙ABC（Bのムはン）

16 族為ニ 乙ABC

二五五 1 口ヲ扉ス ABC

1 遙遠ク 乙ABC

1 困苦ニ不堪メ AB（Cはシテ）

卷九第三十九話

二五五 9 下土隲文

10 平クル功

13 實

13 我カ物負ニ

14 死ヌ

15 一黄ナル

15 犢ヲ

16 左ニ跨ニ

二五六 5 仕テ、

2 五刑ヲ

2 以來ニ

3 枉誅ヲ

3 宗受カ為ニ

5 可崇

6 如此也ト

乙 A B C

乙 A B C

A B

乙 A B C

北乙 A B C 「可崇□」底甲野大（底破損のためカナ不明、甲野は空白）

「シを充つ  
きべきものかと考える。」

乙 A B C

A

乙 A B C

乙 A B C (Bはニイ徒朱補)

乙 A B C

底甲北乙 B

乙 B C

乙 A C (Cは犢と朱傍)

乙 A B C

甲 (、をハと朱訂)

卷九第四十話

二五六 9 疋リノ庖

11 其珠ヲ母

11 此ノ

12 魚服

12 其ノ 約二字分欠

底甲北野乙（底の匣は異体、彦乙はその変）

乙 A B C

B

A B C

諸（Cの空白部は一字分 カケタリと朱注）「其ノ□以テ」底大（破損のため約一字分不明）

「この欠字、原典と対照するも不明。」

12 此レヲ 約五字分欠

13 呑メルト云事ヲ

諸（乙の空白部は約四字分、Bは約六字分、Aは三字分、Cはカケと朱注）

A B C（Bの事はコト）「呑メルト云フ事ヲ」乙「呑メルヲ云フ事ヲ」底甲北野大（ヲ

に甲はト歟 野はトと朱傍）

「初め、呑メルヲ知レリケルと言うつもりであったものが、更に概念化した表現に改めようとして、新旧二表現が未整理のまま残ったものと思われる。」

諸大「崇」でなければならぬが、ここでは字形相似により通用したものの。」

14 云ヒケルトナム

甲北野乙B（Bのムはン）

14 崇リ

卷九第四十一話

二五七 2 見疵死

4 囚ヲ

6 見ルニ

8 凶者ヲ

乙 B

A B C

乙 A B C

甲北



9 云トモ

甲北乙B

卷九第四十二話

二五七 12 得現語

甲北野乙B

13 云フ所

A B C

二五八 1 別レ

諸

2 縣ニ

底甲北野（甲は縣敷と朱傍）

4 本ノ如也

諸

6 罰シ給フ所也

諸

10 悪ノ心ヲ

底乙A B C

卷九第四十三話

二五八 14 國王有り

諸

二五九 1 父ノ王ノ

諸

2 名

乙A C

3 憎ムテ

乙A B C

4 申生ヲ

甲野乙A B C

4 飢湯ノ入苦

乙A C（Cは湯に渴 入に人カと朱傍 入の下にノイと朱補）

5 此レヲ聞テ

★「此ヲ聞テ」底大「此ヲ聞」甲北野「此ヲ」乙A B C

7 餘レラム

乙B

7 不吞ラム前ニ

A C

9 此レ呑ムト

底甲北野乙

9 麗約二八字分欠

時ニ諸(甲北の空白部は約十七字分一行、野約十一字と一行、乙約三二字、B約一行、A

一字と一行、C十三字、Bは一本空行ナシ、Cは此間カケタリと朱注)「麗(姫此□

□メテ云ク、「外ヨリ持来レル物ヲバ輒ク不吞ザレ。試ニ人ニ令吞メムト」云テ、青

衣ニ令吞ム。青衣、此レヲ吞テ、即チ、死ヌ。其ノ」時ニ「底大(破損のためやや不

分明)

12 喜約三字分欠

諸(野の空白部は約二字分、乙約四字分、A B約三字分、C二字分)「喜トスト」底

大

14 紀サハ

乙A B C (Bは糺イと朱傍)

## 卷九第四十四話

二六〇 3 眉間尺

底A B C

4 約一字分欠代ニ

諸大(底以外の空格は約一字分、北は殆どアキナシ、北は□、Bは楚ノイと朱補)

5 懷妊メ

B (Bはシテ)

8 有ル事ニヤ

乙A B C (Cの有はア)

13 有ラレ

乙

14 罪ヲ行ハムト

底甲北野乙

14 不至テ前ニ

乙A B C (テにBはナシイ、Cはテカと朱傍)

15 来ヌ

北野A B C

15 懐妊スル所ノ子

乙 A B C

16 此ノ門ヨリ

乙 A B C

二六二 1 南山ニ

乙 A B C

5 致害セムスト

乙 A B C (Bのムはン)

6 奉レ若シ

乙 A B C

8 自然ニ

諸

9 伺ニ

乙 A

二六二 15 鐘ニ

乙 A B C

16 國王頭

乙 A B C

二六二 1 弱メカ為

A B C 野は脱

4 于今春縣ト

乙 A B C (Bは本ノマ、と朱注)

卷九第四十五話

二六二 8 約一字分欠代ニ

諸 (甲野Cの空白は約一字分、北乙は殆どアキなし、北は□ノと朱補)

15 老ナム時

乙 A B C

15 山ニ行ク父迎テ

乙 A B C

卷九第四十六話

二六三 7 約一字分欠代ニ

諸 (底以外の空格は約一字分、北乙は殆どアキなし、北は□と朱補)

7 自然

諸

- |       |         |                     |
|-------|---------|---------------------|
| 7     | 樹ノ下ニ    | 底甲野 A B (底のノは古体)    |
| 9     | 一人ノ問テ云ク | 乙 A B C             |
| 9     | 何ノ國ヘ    | 乙 A B C             |
| 13    | 父母モ     | 乙 A B C             |
| 14    | 而ル間     | 乙 A B C             |
| 二六四 2 | 明クル朝ニ   | 底甲北野 B              |
| 4     | 天神感應    | 甲北野 A B C           |
| 4     | 河ノ上岳ヲ   | 甲北野乙 A C (C 傍訓ウヘダケ) |
| 6     | 孝養セハ徳ヲ  | A B C 乙は欠           |

おわりに

『今昔物語』巻九の本文の異同を見ると、彦根城博物館所蔵『今昔物語』と同じ表現を多くもつのは流布本系諸本(内閣文庫本 A B C)である。また、これまでの巻では、内閣文庫本 B の表現が彦根城博物館本の表現と一致する箇所が多く、それは、空白などの形式と同じ傾向にあった。巻九の場合、文字数の空白部分が多いが、やはり内閣文庫本 B と多く一致するという結果が得られた。ただし、他の巻のように、流布本系の表記とは一致せず古本系の表記のみに一致する場合においても内閣文庫本 B とは一致するという結果は得られなかった。

また、巻九は、巻二、巻五、巻七と同じく、鈴鹿本という原本に近い本を有する巻であるが、古態を残すとされる東大本甲、東北大本、野村本と一致する箇所もしばしば見られ、これまでとは傾向を異にする。

巻九では全体として、流布本系の諸本と表記が一致するにも関わらず、四四話の目次で「獻王」とあるべきところ、

鈴鹿本と古本系の表記と同じく「獻玉」と誤った表記にしている。同様のことは、卷九第三話の「憎シク」の部分にもいえ、「嫌シク」の表記の本の方が多いが、ここは、鈴鹿本と古本と同じ表記を使っている。また、第四話の「牙」の字は、諸本で「互」の字を使うが、出典の『孝子伝』と鈴鹿本のみ「牙」の字が使われており、彦根本がそのどちらかに拠った可能性をうかがわせるものである。第五話の題名の字も本来、「虎」とあるべきところ、「康」と鈴鹿本と流布本は表記している。また、第一五話では、「大」とあるところ、鈴鹿本と古本と彦根本は「太」としている。以上のことを、総合的に考えると、彦根本は、鈴鹿本あるいは、鈴鹿本に極めて近い本を見て、その固有名詞や漢字については、鈴鹿本に忠実であろうとしたのではないかと考える。

これまで、彦根城博物館本は古態本と流布本の間接的な本として位置づけてきたが、卷九においても若干、その傾向がみえる。これまでの巻の分析で、古本系の諸本と流布本系の諸本の表記の両方を受容した様子が垣間見えたとしたが、漢字や固有名詞については、古本に忠実であろうとしたのではなかったかと推測する。卷五の分析において「古本系と流布本系の両書が手元」にあり、古本系に依りつつ、誤脱などがあると判断した場合は流布本系によった、あるいは、古本系に近い東大本乙のような流布本をひき写したかのいずれかであろう。」と述べたが、その表記の選択の在り様は、ここにきて、明らかとなってきた。引き続き、他の巻においても、その表記、漢字、固有名詞の引き写し方について検討を加えていきたい。

(注)

- (1) 中根「未紹介本『今昔物語』(彦根博物館所蔵)についての一考察」(『愛知県立大学説林』53号 二〇〇五年三月)
- (2) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』卷一の本文の位置づけ」(『愛知県立大学文学部論集』54号 二〇〇六年三月)
- (3) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』卷二の本文の位置づけ」(『愛知県立大学文学部論集』55号 二〇〇七年三月)
- (4) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』卷三の本文の位置づけ」(『愛知県立大学文学部論集』56号 二〇〇八年三月)

- (5) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』卷四の本文の位置づけ」(愛知県立大学文学部論集) 57号 二〇〇九年三月)
- (6) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』卷五の本文の位置づけ」(愛知県立大学日本文化学部論集) 1号 二〇一〇年三月)
- (7) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』卷六の本文の位置づけ」(愛知県立大学日本文化学部論集) 2号 二〇一一年三月)、中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』卷七の本文の位置づけ」(愛知県立大学日本文化学部論集) 3号 二〇一二年三月)
- (8) (1)に同じ。
- (9) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』卷五の本文の位置づけ」(愛知県立大学日本文化学部論集) 1号 二〇一〇年三月)

本稿の中で引用した旧日本古典文学大系の校異は、『今昔物語集二』山田孝雄 山田忠雄 山田英雄 山田俊雄 岩波書店 一九六〇年  
によるものである。